

私の出産体験記(タウン誌深川ML抜粋)

これはタウン誌深川のMLから抜粋したものです。
そのときの私の気持ちなどが正直に書き綴ったものです。

妊娠ライフ

<大人の都合をどう聞いてたかな？>

現在、38週と4日です。予定日まではまだあるのですが、どうしても今週中に出てきてほしいのです。私は、たくさんのおそうざいを作りだめして、しっかりフリーザーにストックしたし、保存食品の買いだめもしたので(実家等から手伝いに来てもらえない自宅出産は準備が大事なのです。主人と二人で、そしてプラス子供二人でのりきるため)、明日の幼稚園行事が終わればいつでもOKなんです。ところが、主人はまだ名前がきまらないとか、まわりのひんしゅくをかわずに休むためには、とかで金曜の夜にゴーサインを出したがっています。こういった大人側の勝手なやりとりを、おなかの子はどう思っているのでしょうか。でも歓迎ムードの中に生まれ出たいと切に思っているはず。なーんて。

うちの子供たちは当日、どう反応するのかなって、今から楽しみです。今のところ、待ちきれず、おなかを押したり、たたいたり口つけて叫んだり、とても怖いおねえちゃんとお兄ちゃん状態です。

先日、とりあえず富岡八幡宮に順調に妊娠期間をすごせた感謝のため、参拝に行ってきました。ところが息子が「ポコちゃんが今日生まれますよ - にっ！」大声で叫ぶので、恥ずかしくてそそくさと帰ってきてしまいました。

いざ出産

<自宅出産してわかった人々のやさしさ>

10ヶ月以上も前のことですが、子供が3人いる人たちに「いいなー、でもうちは誰も手伝いに来てくれないし。転勤もあるかもしれないし……。」とつぶやいたところ「なんとかなるから思い切って産みなさいよー。」とってくれた人がいました。そして、計画の後押しをしてくれたのでした。自宅出産というのは主人も第一選択と考えていたようで、賛成でした。そして石村先生をたずね、「当日、主人がいない(単身赴任あるいは海外出張で)可能性大なんですけど……。」と相談したところ、大丈夫！の一言で決定したのです。

そして、ぎりぎりまでヘルパーさんをたのもうかな、という私となんとかなるってーという主人の意見は割れてました。しかし、なんとかなってるんですー。自宅出産だとその日から、お手伝いは必要なわけですが………実家からお母さんに来てもらえないなんてかわいそうに、と差し入れしてくれる友人のお姑さん。娘の幼稚園の送り迎えしてくれる人。掃除やお布団干しに来てくれる人。こどもたちを外に連れ出してくれる人。電話ひとつで「いいよー。」とってくれる人のなんて多いことでしょう。まさに遠くの身内より近くの他人、です。感謝しきれません。

それに主人。会社は1日しか休まず、毎朝5時半に起き、洗濯とお風呂の掃除。朝食の支度とお昼ご飯(お弁当)をつくり、帰宅途中に買い物をしてきて夕食を作り、片付けたら子供たちをお風呂に入れて……。残業のある前日は夜な夜なシチューをコトコト煮込んでおいてくれたり……。一人二役、よくやってくれます。本当に感謝感謝。(ちょっとのろけですみません)

お蔭様で私の回復も順調で、そろそろ家事のリハビリを開始しようと思っています。自宅出産のおかげで人々の優しさをひしひしと感じたのでした。

<子供たちの反応>

娘(6歳)、息子(4歳)は、夜中にもかかわらず、陣痛が始まると自然に起き出してきました(普段は何があっても起きない)。各自お気に入りのオモチャで遊んだり、石村先生とお話したりして過ごしましたが、陣痛が1分間隔くらいになると、なんと息子にも陣痛がうつってしまい、波が来るたびにおなか痛い、と泣くのです。共感すぎというか、想像陣痛とでもいうのでしょうか……。だから、私はなるべくなんでもないようにしようと思ったのですが、もうその頃は痛くて……。

一方、娘は私が痛いよーって泣いてたわけでもないのに、「うーんってうなってたけど、痛くなかったの？」という感想でした。

臍帯のカットにも参加し、赤ちゃんのえいよう(胎盤のこと)の正体もわかり、赤ちゃんがどこからどうやって出てくるのか、という謎も一気にとけ、子供たちにとっては、とても充実したひとときだったようです。(子供にショッキングなシーンを見せて大丈夫だった？という友人もいましたが、大人ほど先入観はないので、子供の方が受容は早いですよね)

結局、朝の5時まで、つきあってくれました。翌日、娘はちゃんと幼稚園へ行きました。息子は「おかあさん、よくがんばったねー。」と何回もほめてくれました。とてもうれしかったです。

出産に参加して自身もついたのか、積極的に赤ちゃんのお世話をしてくれます。また、いえの手伝いもよくしてくれるようになりました。悪露を見せても、別にびっくりしないし、「おかあさんは、まだおなかから血が出てから一緒にお風呂に入れないし、寝てなくちゃなんないんだよね。」といたわってくれます。

これが、病院から赤ちゃんを連れて退院してきただけなら、ここまで理解できないし、やきもちをやいてしまったかもしれません。

今回、自宅出産をしてみて、想像以上に収穫は大きく、思い出深いものになりました。機会があれば他の人にも是非おすすめしたいです(しかも費用が安いんですよ)。みなさん、いかがでしょう？

石村先生、本当にありがとうございました。

理想の家族とは・社会とは

これで、今まで何度も説明したけど理解がイマイチだったことーなぜおかあさんと時々お風呂に入れなくなるのか。なぜ時々ミニオムツ(ナプキンのこと)を下着につけるのか。という疑問もスムーズに理解してもらえるのではないかな。

そして、私の理想とするところは、娘が初潮を迎えた時、家族みんなでお祝いできることです。そうすれば、いえの男たちは毎月、母娘をいたわることができるだろうし、彼女ができたらできたで、優しくなれるのではないかな？と思います。

高齢者だけでなく、妊婦にも席を譲ってあげられるとか。そして、将来わたしが更年期に突入した時に堂々と宣言してみんなにいたわってもらえたら、なんて。

おしまい